



このコーナーでは、病院で取り組んでいる様々な事業を紹介します。

矯正歯科「Brodie bite」に対する歯科矯正用アンカースクリューを用いた治療の紹介

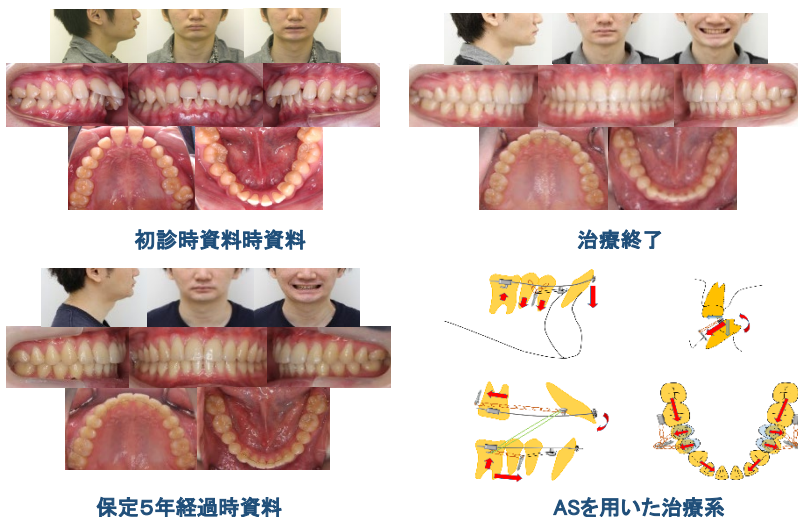
徳島大学病院矯正歯科では、一般的な不正咬合から、顎変形症、先天性疾患を伴う症例まで、幅広い矯正歯科治療を行っています。また、高度先進医療を提供する地域の中核病院として、他の医療機関と連携し、難症例や他の診療科との密な連携が必要な症例に対するチーム医療を実践することにより、win-winの関係を持つ共存共栄を目指しています。

“Brodie bite”とは上顎歯列弓が下顎歯列弓と比較して著しく広く、上下臼歯がかみ合わず、鋏の刃のようにすれ違うことで、噛む機能が低下する極めて稀な不正咬合です。治療は困難を極め、重篤な場合は外科手術が必要になることもあります。今回、我々は“Brodie bite”症例に対し、歯科矯正用アンカースクリュー(AS)を駆使した治療で良好な結果を獲得し、長期的な安定を確立することができました。そしてこの度、この症例報告が、国際的に評価の高い学術雑誌である**American Journal of Orthodontics and Dentofacial Orthopedics - Clinical Companion** (2025年5巻1号)に掲載され、さらに最も優秀な症例報告に与えられる**The Case of the Month**に採択されました。そこで“Brodie bite”を呈する患者に対するASを用いた矯正歯科治療をご紹介します。

患者は18歳6か月の男性で、両側性鋏状咬合を伴うアングルⅡ級上顎前突症例と診断されました。治療方針として、ASを用いて上顎全歯の後方への移動と、下顎小臼歯の整直により、上下臼歯の正常な咬合の確立を図ることとしました。36か月間のマルチブラケット装置による治療の結果、緊密なかみ合わせが獲得され、機能面・審美面ともに良好な結果が得られました。治療終了から5年以上が経過しても大きな後戻りもなく、安定しています。今回の栄誉は、ASを活用した新たな治療メカニクスと長期安定性への工夫が評価された結果と考えられます。

徳島大学病院矯正歯科は、今後も患者中心の診療を充実させ、難症例への革新的な治療法の開発に取り組んでまいります。

文責：徳島大学病院 矯正歯科 診療科長 田中 栄二



病院 NEWS 徳島大学病院新人情報交換会を開催しました！

令和7年5月8日、JRホテルクレメント徳島において徳島大学病院新人情報交換会が開催されました。約270人の参加があり、指導医師、研修医、看護師等が職種を越えて交流を深めました。



写真：徳島大学病院新人情報交換会の様子

	出席者	
	新人	指導者
医師	24	30
歯科医師	16	12
看護部	75	71
薬剤部	5	2
医療技術部	10	7
栄養部	0	0
事務部	6	12
計	136	134



副病院長(診療担当)
滝沢 宏光

病診療担当の副病院長を拝命いたしました。当院は最先端の高度医療を、地域の皆様に安全に提供することを使命とする特定機能病院です。各診療科が提供する高度医療を「縦糸」とするならば、それらを繋ぐ病院機能を「横糸」として強化していくことが私の役割と考えております。患者さんやかかりつけ医の先生方にも「ここで働きたい」と選ばれる病院となるよう尽力いたします。よろしくお願いいたします。



副病院長(歯科担当)
川人 伸次

本年4月から副病院長(歯科担当)を拝命致しました。私は、これまで病院長補佐として執行部に所属していました。歯科領域の麻酔蘇生学・疼痛緩和と医療学・救急集中治療医学を専門とし、難治性疼痛の治療に力を注いでいます。四国で唯一の歯学部を有する総合大学としてのメリットを最大限に生かし、特色ある医科と歯科が密に連携した高度な医療を地域の皆様のご要望に沿って提供したいと思ひます。何卒よろしくお願い申し上げます。



病院長補佐(リスクマネジメント・医療の質担当)
池本 哲也

令和7年4月1日より病院長補佐(リスクマネジメント・医療の質担当)を拝命いたしました。医療安全管理は、「医療の質」の第一の側面であり、重要で大変やりがいのある任務です。徳島県唯一の特定機能病院として、適切な医療安全管理体制を整備し、リーディングホスピタルとなるべく努めて参ります。職員が提供する安全な医療を、全ての患者さんが安心して享受できるよう取り組んで参りますので、ご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願ひ申し上げます。



病院長補佐(アカデミア推進担当)
和泉 唯信

徳島大学病院の役割は、当院を受診される患者さんに最善の医療をお届けすると同時に、革新的な診断法・治療法・医療機器を開発し、世界の患者さんにも貢献することだと考えます。その取り組みの中で得られた知見が、今後は学内外における基礎・臨床研究のタネになり、新たな成果に繋がっていくと思ひます。各診療科が有機的な連携を行い、西良新病院長のもと徳島大学病院のNext stageを切り開いていきましょう！



病院長補佐(タスクシフト・タスクシェア担当)
田中 克哉

みなさま、このたび、タスクシフト・タスクシェア担当 病院長補佐を拝命いたしました。私は麻酔科で手術麻酔を担当しています。現在、特定行為研修修了看護師や薬剤師と連携し、麻酔・疼痛管理を行っています。多職種の協力によって医療の質と安全性が高まると実感しています。今後も院内でのタスクシフト・シェアの推進に努めてまいりますので、ご指導のほどよろしくお願ひいたします。



病院長補佐(労働環境・イノベーション担当)
沼田 周助

4月より病院長補佐(労働環境・イノベーション担当)を拝命しました。主に職場の安全衛生業務に取り組んで参ります。皆様にとって安全で働きやすい病院環境になるように努めます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



病院長補佐(医療DX担当)
若田 好史

4月より病院長補佐(医療DX担当)を拝命いたしました。医療デジタルトランスフォーメーション(DX)とは単なるデジタル化ではなく、それらを活用して組織変革や業務改善、医療の質向上を実現するものです。近年、少子高齢化による人口減少、働き方改革の影響を受け医療分野においても、他分野と同様にDX推進が非常に重要視されるようになって参りました。微力ながらこれまでの経験を生かして業務、研究両面で医療DX推進に取り組んで参りたいと思ひております。



病院長補佐(医歯連携担当)
松香 芳三

4月より病院長補佐(医歯連携担当)を拝命いたしました。痛みセンターでは医科・歯科の先生方と一緒に活動をさせて頂いております。徳島大学は歯学部を有している四国唯一の大学であるとともに、全国国公立大学の中でも貴重な存在であり、大学病院内で幅広い歯科診療が実施されています。今後も周術期、摂食嚥下障害、NST、痛み治療など、多方面において医科歯科連携が進むように、病院長、副病院長をサポートし、病院の発展に努めたいと思ひております。どうぞ宜しくお願い致します。



病院長補佐(医薬品安全管理・研究支援担当)
石澤 啓介

4月より病院長補佐(医薬品安全管理・研究支援担当)を拝命いたしました。薬剤部ならびに総合臨床研究センターの石澤啓介と申します。患者さんが安全な薬物療法を受けられるよう、医薬品の適正使用推進と安全管理の徹底に努めてまいります。また、治験や臨床研究の支援体制の強化と研究環境の充実を図り、アカデミックホスピタルとしての魅力向上に尽力いたします。何卒ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



病院長補佐(事務担当)
浦田 明宏

このたび、病院長補佐(事務部長)に就任いたしました浦田です。鳥取出身で、36年間の病院のみのキャリアは「異例」とも言われますが、各地の大学病院にて医事・経営・総務など幅広い業務を経験してまいりました。医師の働き方改革や病院経営の厳しさなど、さまざまな課題に直面する中、西良病院長が描く徳島大学病院の未来に共感し、明るい展望を持ってこの任にあたる決意です。これまでの経験と全国で得た知見を活かし、事務部一丸となって徳島大学病院の発展に尽力してまいります。今後ともご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



小児歯科 助教 前尾 慶

令和7年度より徳島大学病院・小児歯科・助教に着任しました前尾慶と申します。臨床研修医から小児歯科に携わらせていただいておりますが、日々楽しく診療しております。

小児歯科で約5年間に子供たちを見てきて、歯列が狭く顎の成長が遅い子が多い印象を受けております。予防処置やう蝕治療はもち

ろんのこと、咬合誘導だけでなく、摂食嚥下指導にも力を注ぎたいと思っております。研究では主に低位舌と鼻腔通気障害について研究しています。普段やわらかいものばかり食べている子は顎の成長も遅く歯列狭窄しているので、生活習慣を見直せば顎の成長は改善しますが、鼻腔通気障害で口呼吸になれば口がずっと開いている状態なので、舌をうまく使うことができず、歯列不正の原因にもなり悪循環になっています。

休日の過ごし方は古着屋巡りと魚釣りに時間を費やしております。まだまだ未熟者ではありますが、助教という責任ある立場で、日々精進して参りたい所存ですので何卒よろしくお願い申し上げます。



眼科 医員 細川 善規

令和7年4月より、徳島大学眼科に医員として入局しました、細川善規と申します。

徳島市立高校出身、徳島大学医学部卒業、社会医療法人石川記念会HITO 病院にて初期臨床研修を修了致しました。小学校時代から、野球・ソフトボール、鉄道、ピアノを趣味としており、大学時代は室内楽同好会に所属しておりました。

眼科は、子供の視力発達を支えることから高齢者の生活の質を守ることで、人生のあらゆる段階で重要な役割を果たす分野です。私たちが日常生活で得ている情報の8割以上は、視覚によるものだと言われています。生涯に渡り不自由することなく暮らせるよう、貢献していきたいと思っております。

最善の医療を提供するため、日々研鑽を積み、努力を重ねていく所存です。先輩者でございますが、今後共、御指導御鞭撻の程、宜敷く御願ひ申し上げます。



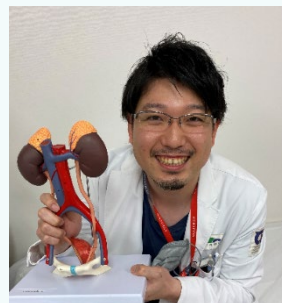
西病棟9階 看護師 田村 莉子

令和7年に入職し、西病棟9階へ配属となりました、田村莉子と申します。

当病棟は、口腔外科・内科、形成外科、血液内科など6つの診療科からなる混合病棟です。

社会人になり1か月が経ちましたが、先輩の姿をみて、実際に患者さんと関わることで、改めて看護師という仕事の責任の大きさを感じています。今はわからない事ばかりですが、疾患の知識や看護技術を身に付け、多くの業務を経験することで、患者さんから「ありがとう」と言われるような看護師になることが私の目標です。

休日は、旅行に出かけたり、小学生のころから続けているバレーボールをすることで、心も体もリフレッシュしています。まだまだ未熟ではありますが、先輩のご指導のもと患者さんに寄り添った看護が提供できるよう精一杯頑張りますので、よろしくお願い申し上げます。

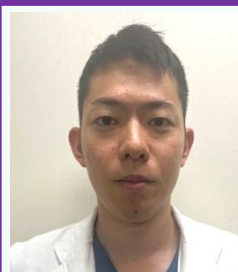


泌尿器科 医員 塩崎啓登

このたび、徳島大学病院泌尿器科に勤務させていただくことになりました塩崎啓登と申します。医師15年目で、これまで愛媛県立中央病院、高松赤十字病院、徳島県立中央病院にて泌尿器科診療に従事してまいりました。

専門はロボット支援下手術(主に前立腺癌・腎癌)および腎・尿管結石に対する内視鏡的治療です。低侵襲で安全な手術、再発予防を見据えた結石管理に力を入れております。

大学病院という高度な医療・教育・研究が交差する場で学びを深めつつ、患者さん一人ひとりに寄り添った丁寧な診療を心がけてまいります。微力ながら診療・教育・チーム医療の一助となれるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



形成外科・美容外科 医員 溝上 悦生

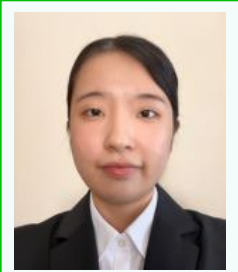
令和7年4月より形成外科・美容外科に入局いたしました溝上悦生と申します。

徳島大学を卒業した後、福山市民病院で2年間初期臨床研修医として勤務しておりました。研修終了後、当科へ入局することとなりました。

形成外科は体表面全体を対象とする診療科であり、腫瘍から先天異常、再建から美容まで、非常に多岐にわたるアプローチで患者さんのQOL向上に向けて貢献できる当科の魅力に惹かれ、進路として選びました。手術の繊細さとデザイン力が求められるこの分野で、一人でも多くの患者さんの笑顔に繋がる医療を提供できるよう努力してまいります。

さて大学時代にはゴルフ部に所属しており、現在でも趣味として休日にはリフレッシュを兼ねてプレーを楽しんでいます。

まだまだ未熟な点も多いですが、どうぞご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



医療技術部 視能訓練士 立本 彩乃

令和7年4月より医療技術部に視能訓練士として入職いたしました、立本彩乃と申します。

視能訓練士は、斜視や弱視に対しての視能矯正、眼科一般検査、健診、眼疾患や外傷などにより視機能が低下した状態の見えにくさを様々な方法で補い生活の質の改善

を支援するロービジョンケアなどを行なっています。医師に信頼性の高いデータや鮮明な画像を提供することで、患者様の視能の適切な評価・治療に繋がるよう、日々業務に励んでおります。

特技はピアノです。3歳から始め、16年間習っていました。曲を解釈し表現することが楽しく、繰り返し練習して思いどおりに演奏できたときには達成感にも包まれます。日常業務も日々研鑽し、成長していきたいです。趣味はゲーム実況を見ることです。

社会人1年目として至らぬ点や未熟な部分もあると思いますが、患者様の視能を守る手助けができるよう日々精進していく所存です。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。